

次世代鉄可溶化肥料「PDMA」の開発と実用化展開が 第57回市村学術賞 功績賞を受賞

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、「砂漠を緑地化する次世代鉄可溶化肥料の開発と実用化展開」という題目で、公益財団法人市村清新技術財団が主催する「第57回市村学術賞功績賞」を受賞しました。

市村学術賞は、日本の科学技術の進歩、産業の発展に顕著な成果をあげ、学術分野の進展に多大な貢献を行った研究者やグループを表彰する栄誉ある顕彰です。本授賞は有機合成化学を専門とする難波康祐教授（大阪大学・徳島大学）を筆頭に、当社と連名で4月18日に開催された贈呈式で表彰状が授与されました。

次世代鉄可溶化肥料「プロリンデオキシムギネ酸（PDMA）」は、全世界の陸地のおよそ3分の1を占めるアルカリ性の不良土壌において、不足する鉄分を効率的に供給する次世代鉄肥料です。土壌で分解されるため、環境負荷を抑えつつ、農耕に適さないとされる不良土壌でのコメやトウモロコシの栽培を可能にします。

徳島大学および当社の共同研究において、鉄可溶化肥料「PDMA」の発明およびその実用的な供給法の開発、効果が表れるメカニズムの解明、アルカリ性の土壌での実証などを達成し、これらの実用化につながる学術的な功績が評価されました。本研究成果は食糧不足問題の解決につながる次世代技術として早期の実用化が期待されています。

当社は「[2024-26年度中期経営計画アップデート](#)」でお伝えしている通り、「環境に一番やさしい鉄屋」を目指し、様々な社会課題へのソリューション提供に力を入れています。食糧不足問題の解決に向け、引き続き環境にやさしい次世代鉄肥料「PDMA」の早期実用化を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【受賞内容】

名称	市村学術賞 功績賞	
受賞テーマ	砂漠を緑地化する次世代鉄可溶化肥料の開発と実用化展開	
受賞者※	徳島大学大学院 医歯薬学研究部	教授 難波 康祐
	愛知製鋼 未来創生開発部 ソサイエティ-材料開発室	室長 鈴木 基史

※受賞当時の所属・役職



左から 難波 康祐教授、
鈴木 基史室長



アルカリ性の土壌での PDMA の効果事例
(左) PDMA 使用なし、(右) PDMA 使用